

南部町総合地震防災訓練

9月6日(日)に、南部町総合地震防災訓練が各自主防災会を中心に、地域住民が主体となった避難所開設及び運営訓練、トリアージ訓練等を実施しました。

各家庭(自助)では初期行動訓練、町内28の各自主防災会では避難訓練、安否確認訓練(黄色いハンカチ作戦)、各部消防団による巡回広報訓練、災害時要援護者避難誘導訓練、避難者人員点呼、服装確認訓練、避難者状況報告訓練、災害状況報告訓練、防災会選択

式実働訓練、発災後の避難所開設・運営訓練、防災資機材点検訓練等を行いました。

富河地区では、活性化センターと駐車場を会場に負傷者を受け入れる応急仮設救護所を開設し、重症度判定救護訓練(トリアージ訓練)と講習会を実施しました。この訓練には、南部中学校の生徒38名が参加し、負傷者の救護搬送方法等を受け、医師、看護師から指導を受けました。

また、災害対策本部と孤立可能性のある地区との衛星携帯電話通話訓練、

物資搬送訓練が行われ、災害時に県と協定を結んでいるNPO法人山梨県地震対策四駆隊の方々にも物資搬送訓練に参加していただきました。

今年も佐野町長、教育長、消防団団長が町内数地区を巡回し、訓練状況を視察しました。各地域で多くの町民の皆様が訓練に参加し、意識の高さがうかがえました。

また、峡南消防署の方々から心肺蘇生法、AEDの使い方、起震車体験も行われ、実際の地震の揺れを体験するなど、より効果的な訓練となりました。

今後とも訓練内容を検証し、実践的訓練を積み重ねることで地域防災力の向上を図り、「自助」・「共助(協助)」・「公助」のより一層の理解と連携を深め、一人ひとりの防災意識の高揚と、災害時応急対策が速やかに行えるよう防災・減災体制の重要性について認識を新たにしました。



土のう作り



担架を作り搬送



中学生が負傷者を搬送



トリアージ訓練



負傷者の応急手当



防災資機材点検訓練



心肺蘇生法訓練



峡南消防署員によるAEDの講習

全国大会出場!! 全国ベスト8!!

8月6日(木)から東京都で行われた高円宮賜杯第35回全日本学童軟式野球大会に南部野球スポーツ少年団が山梨県代表として出場しました。大会には前年度優勝クラブなど51チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。

南部野球スポーツ少年団は、1回戦から3回戦まで順調に勝ち進み、準々決勝では新潟県代表に、惜しくも3-4で敗れましたが、3回戦では完全試合を達成するなど大きな功績を残しました。

また、8月15日(木)から行われた第24回UTYカップ山梨県少年軟式野球交流大会では109チームの頂点に立ちました。

選手たちは全国大会後ではありませんでしたが、疲れを感じさせないプレーで順調に勝ち進み、決勝ではサヨナラ勝ちで優勝を決めました。

選手、監督、保護者の皆さん本当におめでとうございました。

全力プレーで戦いました!



写真提供: (株)共同写真企画

小児救急法を学びました

9月3日(木)医療センターで小児の救急法が行われ、30組の親子の参加がありました。講師には南部町医療センター 市川医師、都留市立病院 小児救急看護認定看護師 安藤香織看護師をお招きし、講演、実技を行いました。

市川医師の「子供のホームケア」受診しなくて大丈夫?」では、子どもに「熱が出た」「吐いた」「けいれんした」「発疹が出た」ような場合のあてにならない対処方法、また119番、時間外受診の仕方などを教えていただきました。

安藤看護師の「きをつけて!こどもの事故とその予防」では、家庭での事故と予防について講話をいただき、子どもの事故のほとんどは家庭内で起きていて、窒息の事故が一番多いということで、「大人では問題にならないような身の回りのものが事故の原因になります」と注意を促しました。その後、乳幼児健診でおなじみの依田紗弥さんと手遊びをしてリラクゼーションした後、実技を行い各グループに分かれ人形を使って、窒息の対処法、心肺蘇生法を一人ひとり実践しました。

各家庭でも学んだことを共有していただければと思います。



窒息の対処法



心肺蘇生法

イングリッシュキャンプ

8月4~5日、山梨県立なかとみ青少年自然の里においてイングリッシュキャンプが行われました。

このイングリッシュキャンプは、外国人の先生方と英語で過ごし、様々な活動から英語に親しみを感じ、英語はコミュニケーション

シヨンの道具であることを体験します。

当日は、小学校5・6年生39名が参加し、ジャイアントカルタやオリエンテーリングなどのゲーム、カレー作りを英語で体験しました。



はい、チーズ!



飯ごうで炊きました